

〔榮花物語衣二十七〕とし〇萬壽もくれぬれば、一夜が程にかはりぬるみねのかすみも、あはれに御

覽せられて、山里いかで春をえらましなど、うちながめさせ給に、ついたちの日もくれて、二日た

つるときばかり、辨のきみ任藤原公まり給へり、思ひがけぬほどの事かなとおぼさるゝに、御

装束もたせ給へりける、かくれのかたよりうるはしうして、御まへ任公にいで、はいしたてま

つり給なりけり、人なかのをりの御すまゐだに、なほわが御心にはすぐれておぼさるゝ、御有さ

まの、まいてさるやまのなかたにのほとりにては、ひかるやうに見え給に、あないみじ、これを人

にみせばやと見るかひあり、めでたのたゞいまのありさまやと、人のこにてみんに、うらやまし

くももたまほしかるべきこなりや、みめかたち心ばせ、身のざえいかでありけん、あはれにい

みじうおぼさるゝにも、御なみだうかびぬ、さて山ざとの御あるじ、ところにあたがひをかしき

さまにて、御ともの人にも御みき給て、かへり給なごりこひしくながめやられ給

〔家忠日記追加〕慶長十三年正月二日、台徳院殿〇徳川より酒井家次御使として、駿府に至て新正

を祝す、

〔駿府政事録〕慶長十八年正月朔日庚申、幕府御名代酒井左衛門尉家次、大澤少將披露之、又左衛門

尉自分御禮、御太刀持參之、

〔慶長日記〕慶長十九年正月朔日甲寅、御禮如常、大御所様〇徳川江戶にて御越年、元朝之御禮過將

軍家〇徳川西ノ丸へ御禮ニ御出被成、

〔駿府政事録〕慶長十九年正月朔日甲寅、已刻爲御禮將軍家〇徳川渡御新城、於南殿御對面、御太刀

守家、御馬代銀子千兩、御奏者大澤少將、奥之於御座敷御上段御祝、御酌松平右衛門佐正久、御加水

野金十郎、御陪膳金森左兵衛、北見長五郎、内藤掃部助、其以後諸士御禮、五日、大御所〇徳川渡御

本丸御祝儀終